



倉田小だより 7月号

～つながり いきいき 倉田っ子～

横浜市立倉田小学校



Uitemate(浮いて待て)

校長 末松 隆一郎

街のそこかしこに水溜りを残しながら、梅雨も駆け抜けようとしています。照りつける日差しが紫陽花の終わりを告げはじめ、輝く夏が、湿った風の背中越しまで来ているようです。

学校では前期前半まとめの時期を迎え、あと少しで夏休み。今年度は社会でも「3年ぶり」という言葉が一つのトレンドとなっていますが、学校でも、「3年ぶり」の4・5年生宿泊体験実施、校庭での全校朝会実施、ハイブリット型ではありますが、学級懇談会や音楽集会も実施されました。今後も、感染状況の把握や感染対策の徹底を図る中で、「再生と創造」を図っていきたいと思います。

Uitemate(浮いて待て)

今年の夏は、「3年ぶり」に、緊急事態宣言やまん延防止等緊急措置のない夏休みとなりそうです。久しぶりに楽しいご計画を立てている皆様も多いのではと思います。楽しく安全に過ごしてほしいと思っています。しかし、6月に入ってから各地で水の事故のニュースも聞こえてくるようになりました。そこで、昨年度夏休み前朝会でも子ども達に話した「Uitemate(浮いて待て)」について、今年度も話す予定ではありますが、ぜひ保護者の皆様にも知っていただきたく記させていただきます。

Uitemate(浮いて待て) この言葉は、一般社団法人水難学会が提唱している、水難事故にあっってしまった際の命を守る合言葉で、同学会会長の斎藤秀俊氏が提唱。2011年の東日本大震災の時は、宮城県東松島市の体育館を襲った津波から多くの子ども達の命を救った自己救助法、また、水難事故時の標準的生命維持動作として国際的にも評価され、「浮いて待て」という日本語とともに、

世界に広がった言葉です。

これまでの警察等の統計によると、中学生以下の水難事故の90%は、釣りや川遊び・水遊び、ボールを取りに行き落ちて落ちたなど、服を着たまま溺れるケースだそうです。水泳中の事故は10%未満で、場所別にみてもプールは4%程度に過ぎず、そのほとんどが川や海、湖沼地、用水路で起きています。そして、時期では、半数以上が6月から8月に起きています。

倉田小では、毎年6年生が着衣による水辺の安全学習を実施しています。万が一の事態に備えて、皆様も水難事故への対処法としてこの言葉を心に刻み、この夏を楽しく安全にそして、元気に過ごしてほしいと思います。

合言葉は

“UITEMATE”

大きく息を吸い、空気を肺にためる。あごを上げて上を見ると呼吸しやすい

手は水面より下に。ペットボトルやかばんがあれば胸に抱える



手足を大の字に広げる

靴ははいたまま。軽い靴は浮き具代わりに

※資料イラスト掲載許可：一般社団法人水難学会